

巻頭言 二〇二二年、新たな第一歩へ

国士館史資料室室長 長谷川 均

二〇二一（令和三）年は、新たな第一歩を踏み出す年となりました。二〇二二年三月末をもって飯田昭夫先生が室長を退任され、後を受け八月から新室長に着任いたしました。

国士館史資料室では、長年担った『国士館百年史 通史編』を昨年度末に刊行し、すでに上梓した『史料編』二冊とあわせて世に送り出しました。本学初の本格的な編纂事業であった『国士館百年史』三冊を学内外でご利用いただけるよう期待しております。この『通史編』の完成に伴い、百年史編纂委員会は、昨年五月末に今後の学園史編纂の展望を策定してその任を終えることとなりました。長年ご尽力いただいた編纂委員および専門委員の諸先生には改めて御礼を申し上げます。

編纂後は『国士館百年史』を基礎とし、今後の学園史編纂に向けた諸活動の再開とあわせて、本学の教育研究への活用をはじめ学内外に新たな成果を示す年となりました。『国士館百年史』を紹介する刊行記念展を梅ヶ丘校舎内で企画したほか、二年ぶりの開催となった国士館大講堂での創立記念展では、創立者没五〇年に際してその「言葉」をテーマとする企画展を実施しました。創立記念展は、昨今の状況から学内関係者のみの入構制限のため、例年の大講堂を一般公開する東京文化財ウィークへの参加は見送りましたが、同時期の大学楓門祭等に活気を添えました。また教職員に向けた学園史講演会を企画し、沿革史や理念への理解を深める機会を創出するなどしました。学内の活気が戻りつつある一方で、創立者直孫の館長柴田徳文先生、元体育学部長の西山一行先生、当室初代室長の阿部昭先生らの計報にも接しました。特に阿部先生は、百年史編纂事業の基盤整備を担われ、当室の発足にも尽力されました。本学の発展に長く尽くされた先人のご冥福をお祈りいたします。

本誌『国士館史研究年報 楓原』は、新たなステップとなるよう今号から表紙等を一新しました。当室では、引き続き本学に關わる歴史的資料の収集・整理に努めつつ、新たな学園史編纂に向けて本誌の内容も一層充実させていく所存です。今後も当室の活動に、変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げます。

二〇二二年三月吉日